活動報告4

恵庭ふるさと 100 年の森／恵庭市

報告者　渡邊尭宏さん

私たちのフィールド

私たち「恵庭ふるさと 100 年の森」は、平成 27 年に設立され、今季 3 年目を迎えました。私たちのフィールドは恵庭市島松沢地区にあり、「北清の森」と呼ばれる約 9000 坪の森です。市内の建設会社の企業林なのですが、同社のＣＳＲ活動の一環として森を丸ごと任せてもらい、間伐作業などを実施しています。

私たち団体の目的は次の通りです。

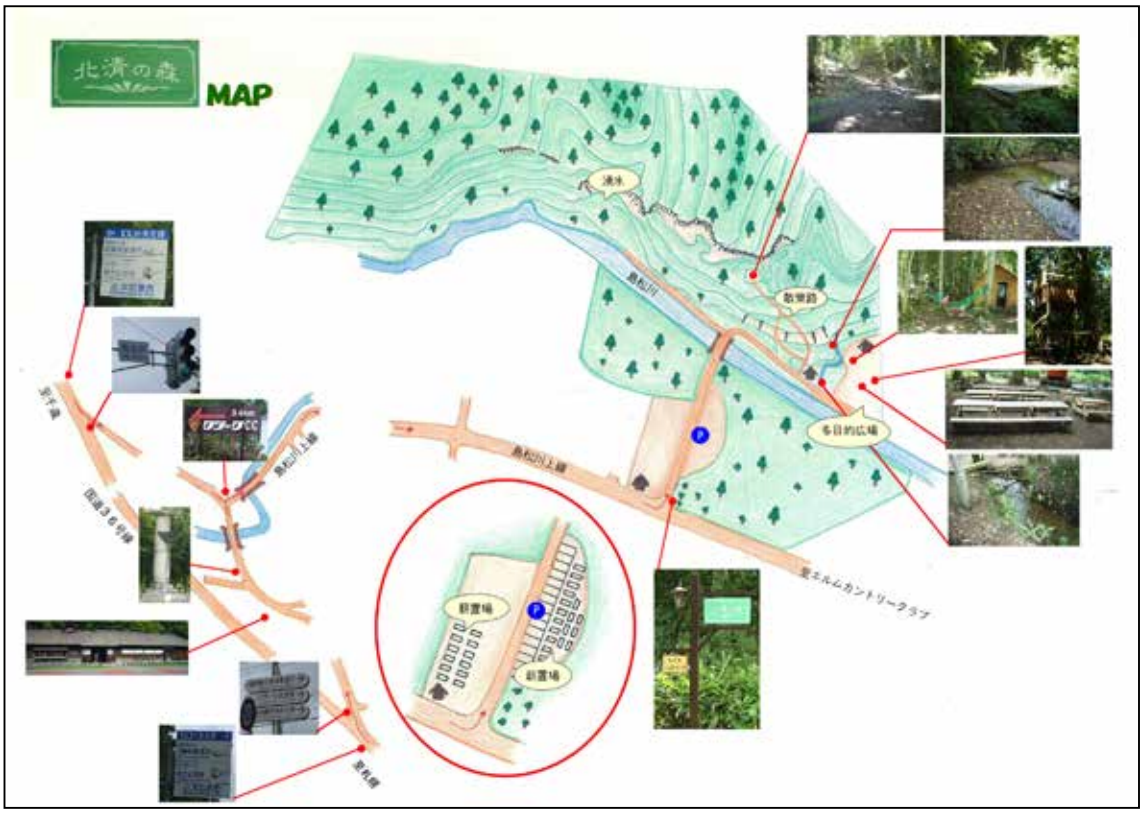
恵庭の森および里山ならびに河川において、幼児を含む青少年を対象にした自然体験活動などの環境教育、自然保護と自然環境の改善に関する活動や普及啓発事業などを通して、北の大地に大志を抱き、厳しい自然環境の中、寒冷地稲作を成功させた先人の苦労とそれを育んだ深い森、そして里山を市民の手で「恵庭のふるさと」として永続的に守り伝えることで、自然との共生と郷土を愛する心を育み、人と自然の調和がとれた地域と環境をつくること。

従って、大人メインというよりは、子どもたちの育成をターゲットにした活動です。

活動のようすと成果

全体で 9000 坪と言いましたが、これまで手を入れることができたのは 1000 ～ 1500 坪くらいといったところでしょうか。茂漁川づたいに広がる細長い形の森です。ここで森林保全、「馬搬」による間伐、間伐材を使った薪づくりのほか、月に１回程度、地域開放をして森で遊ぶ事業をしています。そのなかで自然体験活動を企画し、環境教育系のＮＰＯと連携して講師派遣を受け、自然の中での遊び方、森林性昆虫の観察会などを実施しています。

また、恵庭市内の幼稚園・保育園の園児たち、学童保育の児童たちの自然体験活動を受け入れています。森で拾ったドングリを家庭に持ち帰って育て、芽が出たらまた「北清の森」に戻し植えるプログラムも行なっ



ています。

園児の受け入れでは、年中組（４歳）の園児たちが秋以降は毎週１回、この森にやってきます。「森に来たら毎日何かひとつずつ覚えて帰ろう」と教えています。かといって特別な活動プログラムを組んでいるわけではなく、森の中で自由に遊ぶこと自体が目的です。

私たちの役割は安全管理です。自然の山なのでウルシかぶれなどリスクはありますが、それをあらかじめ取り除くのではなく、どうすれば避けられるかを教えるように心がけています。保護者の関心も高く、恵庭幼稚園の保護者会がこの森でのイベントを企画・実行した際は、地域の方も含め150名ほどが集まりました。週末の開放日には各園の保護者が参加して、少しずつ手作りの遊具を増やしています。

市内の学童保育の児童たちも毎週１回、この「北清の森」を利用しています。初めは何をして遊んでよいか戸惑っていた子どもたちでしたが、すぐに自由に森を走り回るようになりました。やがて「森に泊まりたい」という声も出て、キャンプを実施しました。子どもも遊びますが、大人も一緒になって遊べるのが私たちの「北清の森」の特色だと思います。

今後の課題、私たちのこれから

このような活動を続けるには、会員数をもっと増やしていく必要性を感じます。３年間で交付期間は完了しますので、来年度以降どうしていこうか、何か収益を上げる事業が必要ではないかと思案しているところです。かといって、キャンプなどのイベントを毎日行なえるわけではありません。現在は幼稚園・保育園・学童保育の子どもたちを対象に主に教育的な活動を行なっていますが、より広く地域の人たちに森と関わってもらうために、私たちが考えなければならないこともあると思います。

もうひとつ、団体の職員の確保も課題です。事務局の私も専従ではなく、ふだんは幼稚園に所属して学童保育の指導員をしています。土曜日曜の休日を使って森の整備作業をしていますが、時間が足りず、十分にはできていません。

森で遊ぶ子どもたちは素晴らしい笑顔をします。遊具がなくても、梢から落ちてきた雪をかぶっただけですごく楽しそうです。「子どものころ、里山の森で遊んだ」という思い出をいつまでも忘れないでいてほしいと願っています。